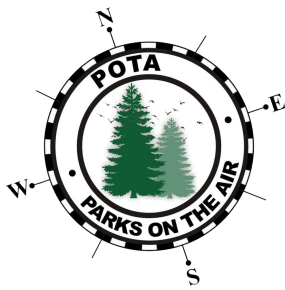


dFLoFTsで POTAログを らくらく作成



[基本編]

ACTIVATING A PARK NOW

POTA(Parks On The Air)では、Activationの成否に関わらず、ログの提出が義務付けられています。ログはPOTAサイト上で手動で入力することもできますが、FT8のようなデジタルモードで通信した場合は、交信相手の数も多く、また手動での登録は手間がかかりますし、入力ミスなどがあり正確性も欠きます。

そこでオススメしたいのが、JA1CTC局がSOTA向けに作成された変換ツール「dFLoFTs」です。このツールはWSJT-XやJTDXのログファイル(wsjtx_log.adiとwsjtx.log)から、SOTAやTurboHAMLOG、LoTWやeQSLに加えて、POTA提出用のログファイルにも変換できます。大まかな流れは次の通りです。

- 1 ■ Web ブラウザーで、dFLoFTs(https://little-ctc.com/wp_html/dflofts.html)を開く
- 2 ■ Activationの日付(協定世界時:UTC)を指定
- 3 ■ Activationで使った端末のadiファイルかlogファイルを選択
- 4 ■ 開始・終了時刻を指定しActivationのログだけに絞り込む
- 5 ■ Activation時に使用したコールサイン、4桁の公園番号(JA-XXXXの「XXXX」)など、必要な情報を入力・指定
- 6 ■ すべて指定できたら「Logfile transform Star」を押す
- 7 ■ 完了したら「POTA」タブに移り、ファイルをダウンロード
- 8 ■ 「7」のファイルを、POTAサイトにアップロードして完了

PCなどActivationに使った端末だけで 作業を完了できる

では、ある局が1日(UTC基準。日本標準時では午前9時から翌日9時まで)に、2公園でActivationにチャレンジしたとして、POTAサイトにログをアップロードする手順を見ていくことにしましょう。dFLoFTsでは「wsjtx_log.adi」と「wsjtx.log」の2つのファイルが使えますが、ここでは「wsjtx_log.adi」を例に説明します。

まずはWebブラウザで、変換ツール「dFLoFTs」(https://little-ctc.com/wp_html/dflofts.html)を開きます。「From Date:」にActivationにチャレンジした日付(西暦)を「20231207」のように半角数字8桁(コールサインや日付などの英数字は半角で入力)で指定します(図1)。次に「ファイルを選択」をクリックして

POTAでは、Activation(アクティベーション)の成否に関わらず、Activator(アクティベーター)はPOTAサイトにログを提出する必要があります。FT8やFT4など、デジタルモードで交信している人にお勧めなのが、JA1CTC局が提供されている変換ツール「dFLoFTs」です。ログ提出が不安という人に強い味方です。 文責: JH1NKA

図2のような画面が開いたら「wsjtx_log.adi」を選んでください。なおadiファイルの場所は、WSJT-XやJTDXどちらのソフトも、メニューバーで「ファイル」→「ログディレクトリを開く」をクリックすると、開いた画面のアドレスバーで確認できます(図3~図5)。

■まずはActivationした日付を西暦で入力しよう



図1 日付は必ず半角数字、西暦で入力。日付はUTC基準である点に注意。日本時間の12月7日の午前9時は、UTCでは12月7日の0時となる。日付を指定できたら「ファイルを選択」をクリック。

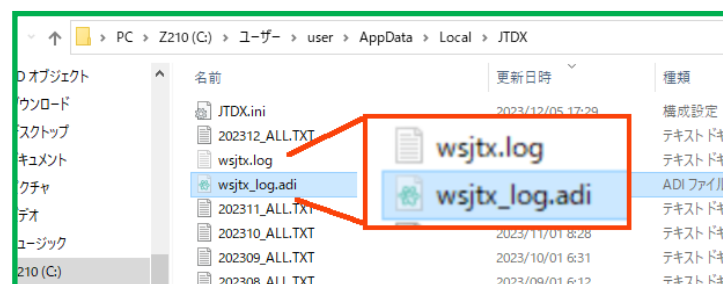
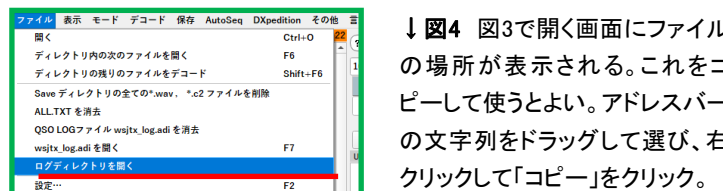


図2 「wsjtx_log.adi」と「wsjtx.log」の2つのファイルが使える。今回は「wsjtx_log.adi」を例に説明するので「wsjtx_log.adi」をクリックで選ぶ。

■adiファイルの場所の確認方法も知っておこう



↓ 図4 図3で開く画面にファイルの場所が表示される。これをコピーして使うとよい。アドレスバーの文字列をドラッグして選び、右クリックして「コピー」をクリック。

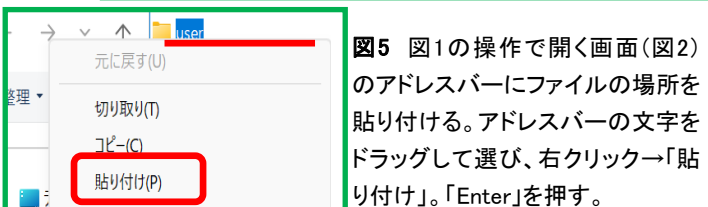
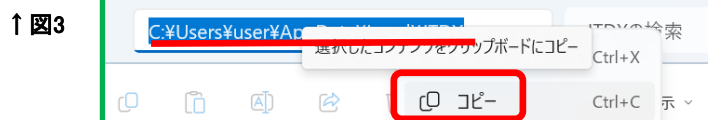


図5 図1の操作で開く画面(図2)のアドレスバーにファイルの場所を貼り付ける。アドレスバーの文字列をドラッグして選び、右クリック→「貼り付け」。「Enter」を押す。

紹介したのは標準的な事例です。dFLoFTsにはさらに便利な機能があるので、詳しいマニュアルをご覧ください(https://little-ctc.com/dflofts_doc/)

ファイルを選ぶと、画面が図6のように切り替わります。これで指定した日付以降の交信記録だけが読み込まれます(adiファイル以外を選ぶとアラートが出る。その場合「OK」をクリックして、再度「ファイルを選択」をクリックし「wsjtx_log.adi」を選ぶ)。

今回の例では、同日に2公園を回っているのので、それぞれの公園ごとにログを提出する必要があります。この時に活用したいのが、「Start Date Time」「End Date Time」です。日付・時刻を指定することで、データをさらに絞り込めるのです。

時刻の指定は半角数字で 協定世界時(UTC)の「時分秒」にする点に注意

さてActivationにチャレンジしたある局は、日本時間で午前中(10時から11時30まで)はA公園で、午後13時から14時40分までB公園で運用したとします。

ある局のActivationチャレンジ(いずれも日本時間)

- 1 ■ 2023年12月7日の10時～11時30分。A公園
- 2 ■ 2023年12月7日の13時～14時40分。B公園

A公園は10時から11時30分、B公園は13時から14時40分と時刻を指定したくなりますが、WSJT-X、JTDXそしてPOTA、いずれも協定世界時(UTC: 日本時間で午前9時から翌日の午前9時まで)で時刻を指定する点に注意してください。今回の例ではA公園は「010000」「023000」、B公園は「040000」「054000」と開始時刻と終了時刻をUTCで指定します(図7)。なお図6の赤枠内の文字は選択できます。こちらはUTC時刻で記録されているので、開始・終了時刻をここからコピーして使うといいでしょう。

「MyCall Sign」には「/P」「/1」など**必ず運用時に使用したコールサインを入力**(図8)。続けて「POTA-Ref」の左側の入力欄に「XXXX」と数字4桁で入力します。入力後、図9のようになれば、POTAに提出するログでの過不足はありません(クラブ局の場合は「Operator」欄も入力する必要あり)。次に「Logfile transform Start」ボタンをクリック。これでファイルの変換が始まります。変換中は青いバーで進捗が表示されます。

変換できたら、POTA提出用のadiファイルをダウンロードするために、画面右上の「POTA」タブ(枠)をクリック(図10上)。切り替わった画面で変換された内容を確認できます(図10下)。「～ダウンロード」をクリックすれば、PCなど自分の端末に保存できます。今回の例では、もう1つ公園でのActivationがあるので、時刻と公園番号を変えて同様にファイルを変換作業をします。

なお、国立公園域内にある都道府県公園や、POTA対象の緑道に接した公園など、一度のActivationで2公園が対象となる場合(POTAでは「2-fer」と言います)、図11の右欄にも公園番号を指定します。この場合、変換後「POTA」タブには2つのファイルが併せて表示されるので、「POTA_2nd_Referenceダウンロード Overlap Area」をクリックしてファイルをダウンロードしましょう。

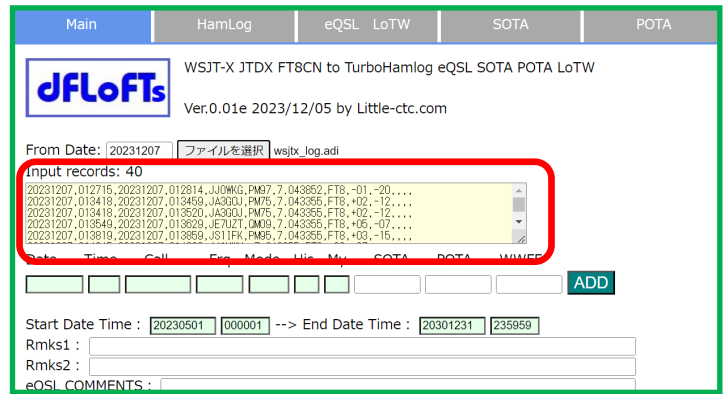


図6 adiファイルのデータがdFLoFTsに読み込まれた。

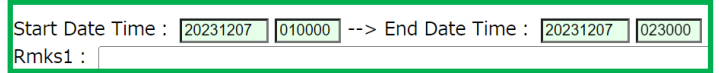


図7 いずれもUTCで日付(20231207)と開始と終了時刻は時分秒(Star: 010000, End: 023000)と入力。半角数字であることに注意。

「MyCALL Sign」は運用時のものを。「/P」など忘れない

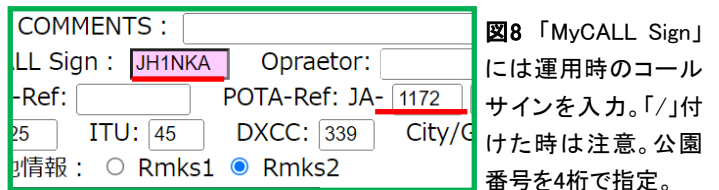


図8 「MyCALL Sign」には運用時のコールサインを入力。「/」付けた時は注意。公園番号を4桁で指定。

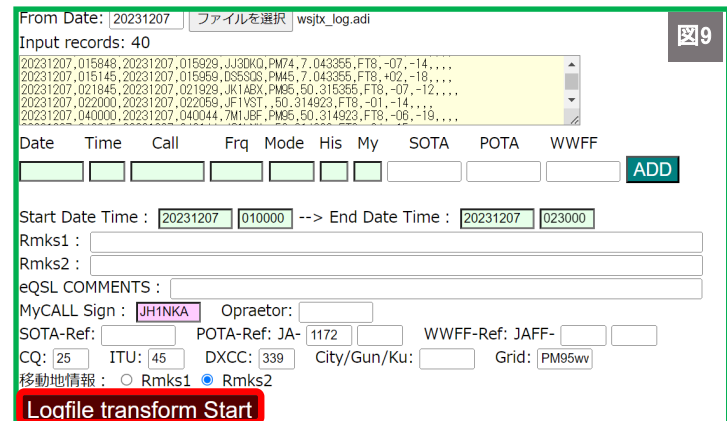


図9

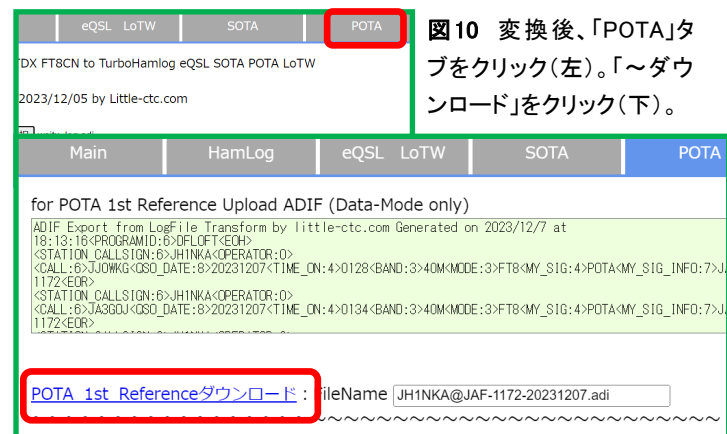


図10 変換後、「POTA」タブをクリック(左)。「～ダウンロード」をクリック(下)。

一度のActivationで2公園が対象になるケースにも対応

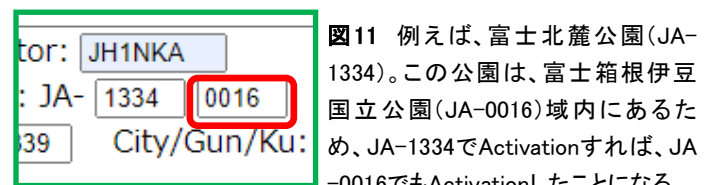


図11 例えば、富士北麓公園(JA-1334)。この公園は、富士箱根伊豆国立公園(JA-0016)域内にあるため、JA-1334でActivationすれば、JA-0016でもActivationしたことになる。

これでPOTA提出用ファイルが完成しました。念のため、完成したファイルはテキストエディタなどで開いて、中身に不備がないかを確認しておくで安心です。

POTAサイトの「My Log Uploads」に変換したファイル(ログ)を提出すれば完了

ここからは、完成したActivationログを、POTAサイト(<https://pota.app/>)に提出する流れを説明します。WebブラウザでPOTAサイトを開きます。ログインしていれば、自分のコールサインが画面右上に表示されます。次にコールサインをクリック。これで現れるメニューから「My log Uploads」を選びます(図12)。すると図13の画面に切り替わります。

このページの「MANUAL LOG ENTRY」で、ログを一つひとつ手動で入力することもできますが、既にdFLoFTsで変換したファイルがあるので、すべての交信をまとめてアップロードしましょう。それには「Click here or drag and drop to upload ADIF logs from your Activation」と書かれたエリアをクリックします。ファイルを選ぶ画面が開くので、先ほどダウンロードしたファイル(ここでは「JH1NKA@JAF-1172-20231207」)を指定します(図14)。

すると図15の画面に切り替わります。既に「Park」欄には公園番号が「JA-XXXX」の形式で自動的に入力されています。「Location」には都道府県が入力されています。ただし国立公園など、複数の都道府県にまたがる場合、Activationした都道府県をリストから選んで正しく指定してください(県名は神奈川県ならKN、静岡ならSZと、欧文2文字で表示されます)。

ログの内容に誤りがないこと、POTAのルールに則って運用したこと等に同意する欄にチェックマークを付けたら、「UPLOAD FILE FOR VALIDATION」をクリックします(図16)。これでファイルがアップロードされ、完了すると図17のような画面が現れます。ログ提出が混み合っていないければ数分から数時間で、土日のようにActivationが多い曜日は混雑するため24時間程度で承認され、自分のActivation記録と、Hunterの記録にログとして追加されます(図18)。

■POTAサイトの「My Log Uploads」からログを提出

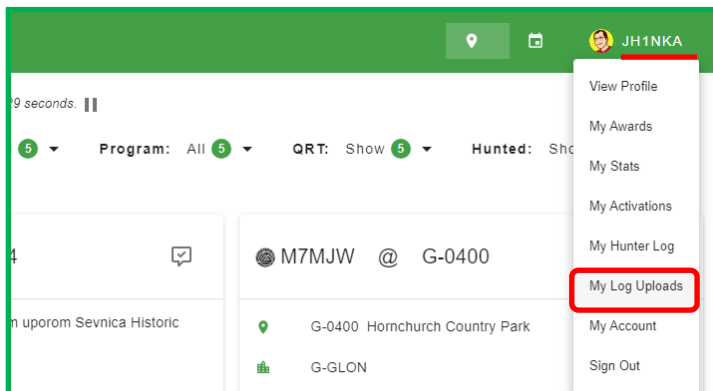


図12 POTAyページでは、Huntした公園の記録や、Awardの進捗を簡単に確認できる。

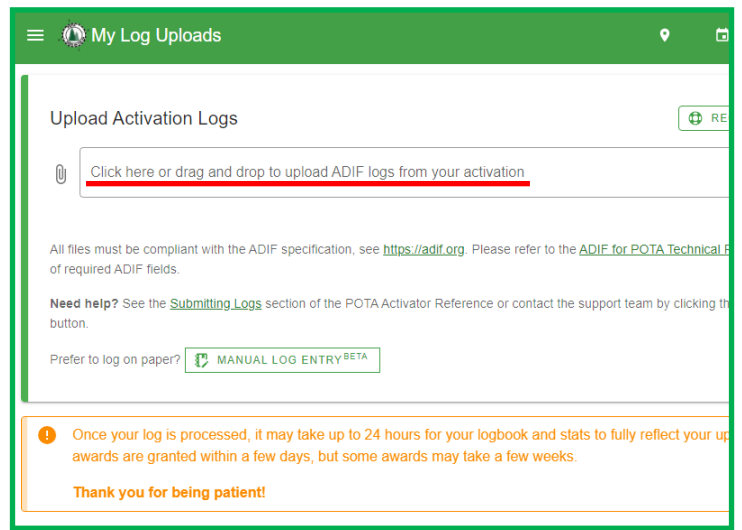


図13 「Click here or drag and drop to upload ADIF logs from your Activation」というエリアをクリック。

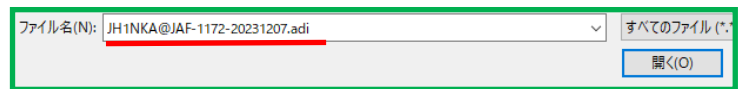


図14 提出ログを選ぶ画面が現れるので、dLFOFTsで変換したファイルを指定し、「開く」をクリックする。

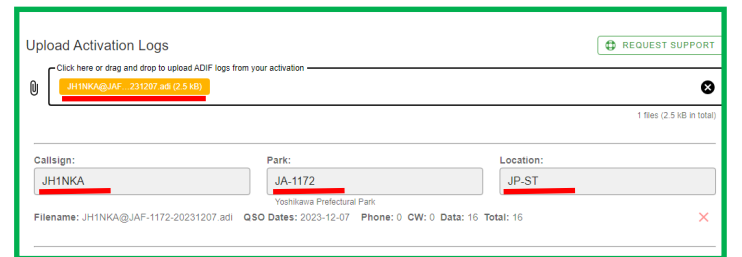


図15 このような画面に切り替わる。赤下線部を確認。

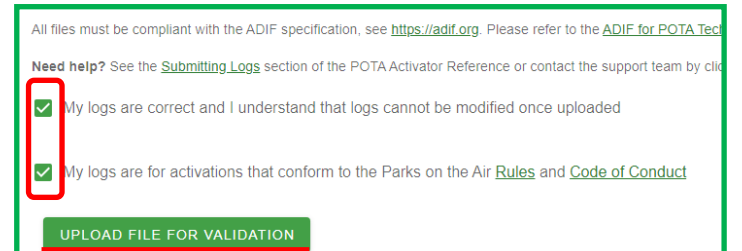


図16 チェックを入れ、「UPLOADS FILE FOR～」をクリック。

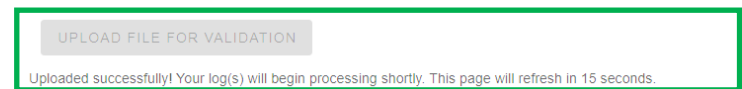


図17

■早ければ数分で、遅くとも翌日にはログが登録される

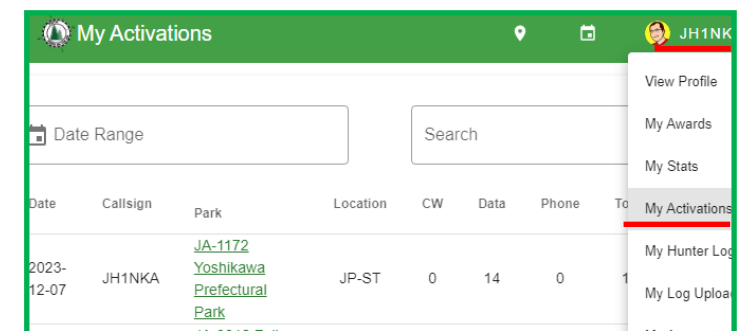


図18 Activationが多い休日のログは登録までに24時間以上かかることもある。ログは「My Activations」で確認できる。

紹介したのは標準的な事例です。dFLoFTsにはさらに便利な機能があるので、詳しいマニュアルをご覧ください(https://little-ctc.com/dflofts_doc/)